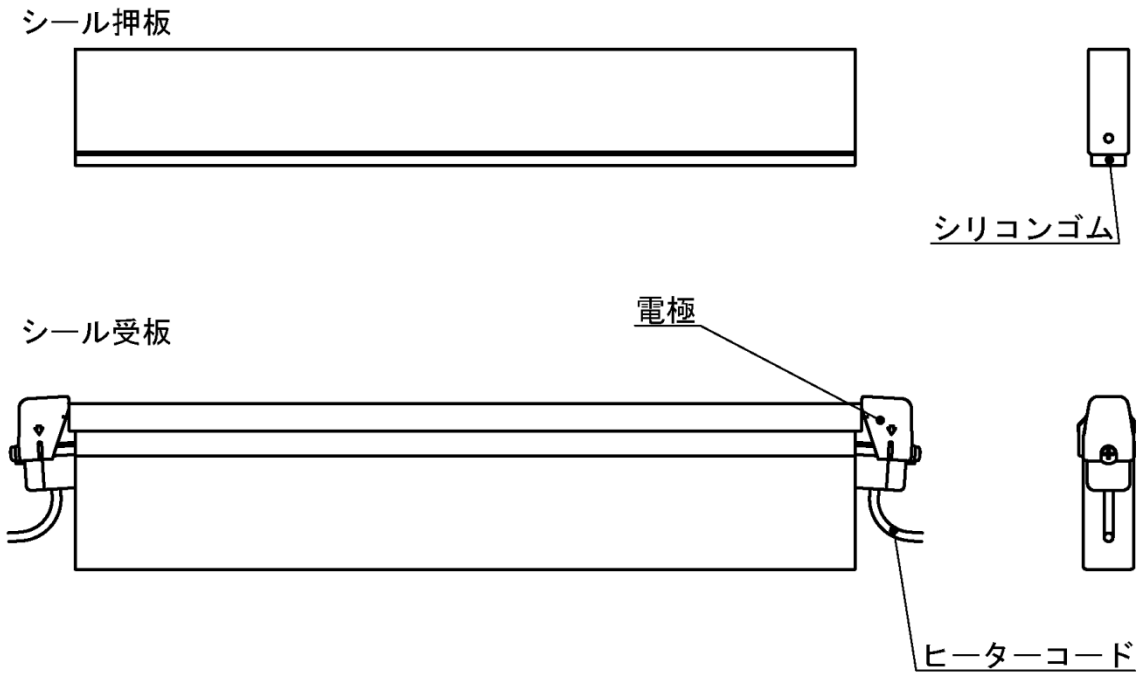
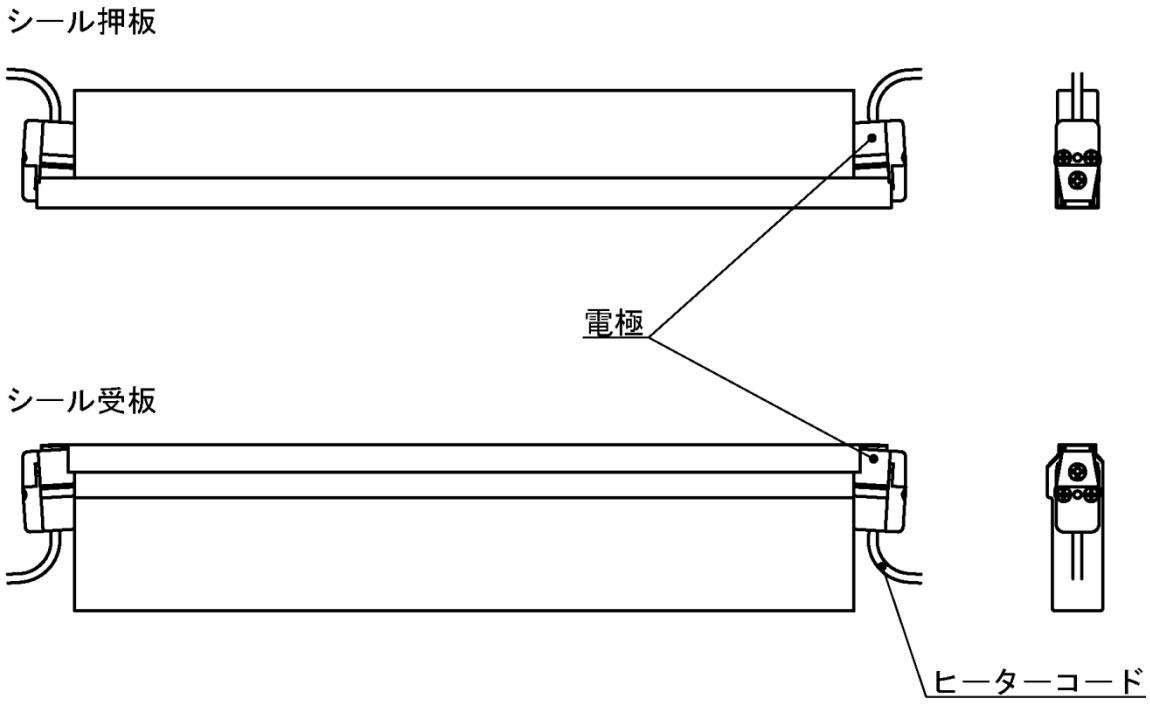
５ 各部の名称とはたらき

シールバー

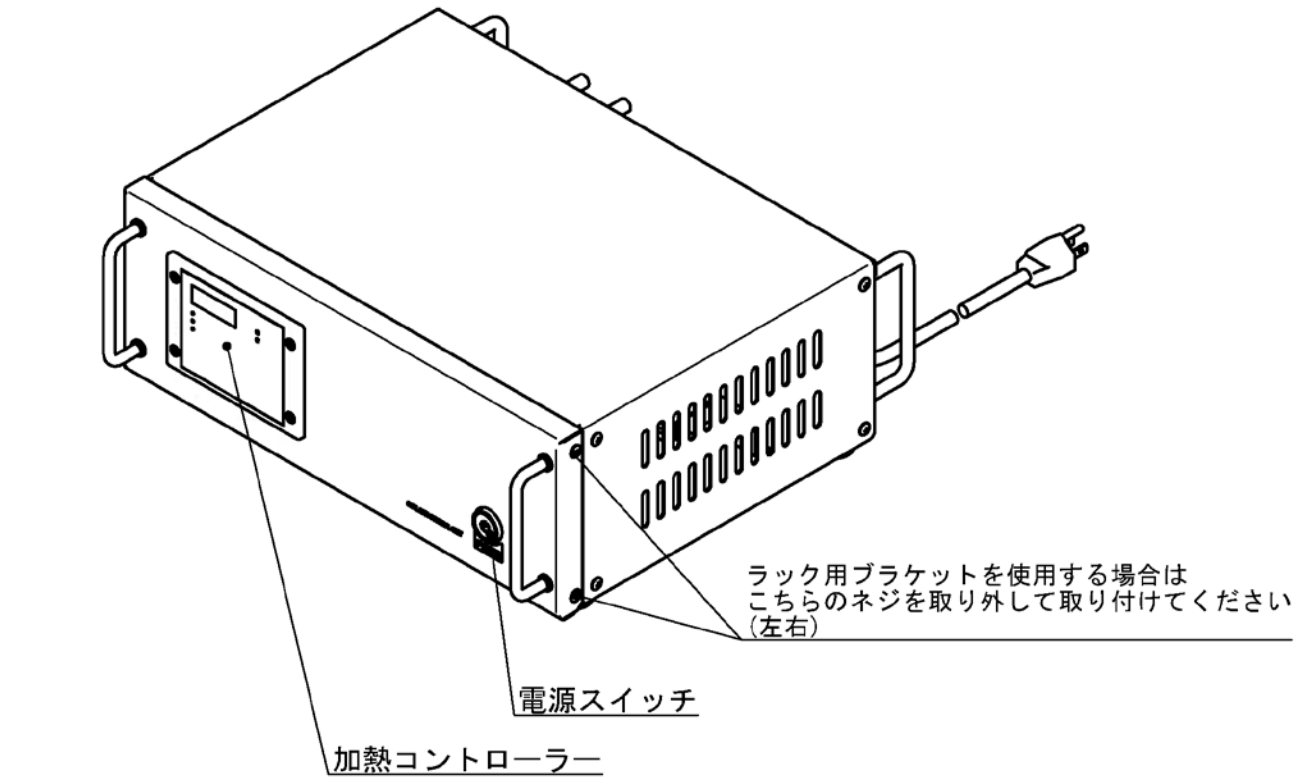
■片側加熱方式

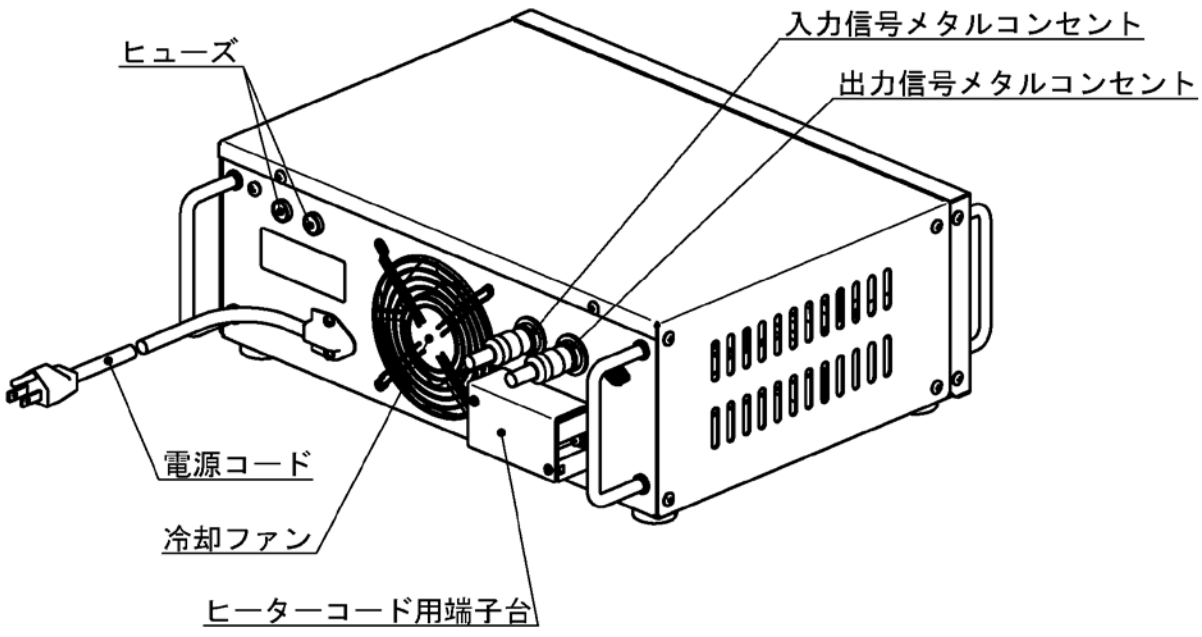


■上下加熱方式



制御ユニットケース


ラック用ブラケットを使用する場合は
こちらのネジを取り外して取り付けてください
（左右）
電源スイッチ
加熱コントローラー

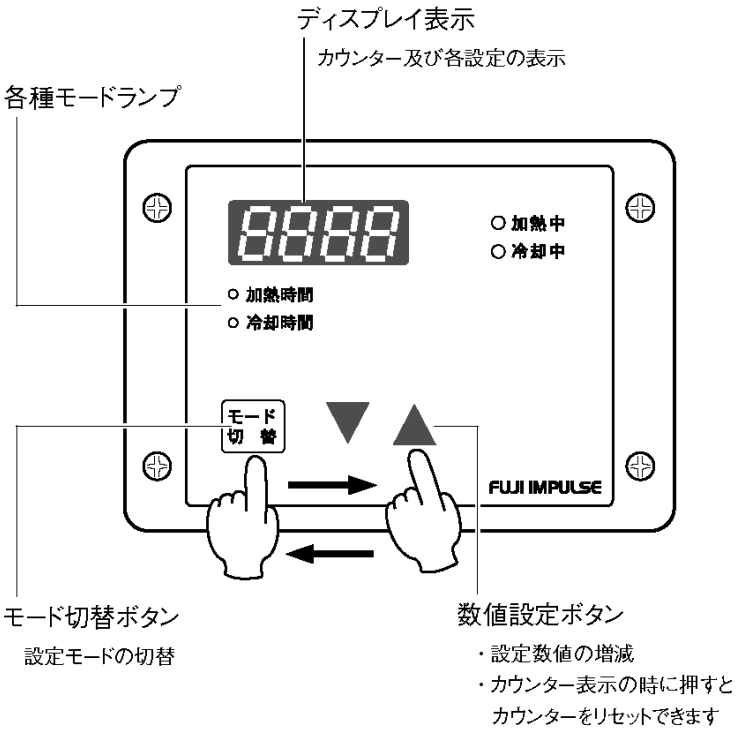

入力信号メタルコンセント
出力信号メタルコンセント
ヒューズ
電源コード
冷却ファン
ヒーターコード用端子台

コントロールユニット

■シール条件の設定

コントロールユニットで加熱・冷却時間を設定します。袋（フィルム）の材質、厚さなどにより、設定値は変わりますので、異なる袋（フィルム）を使用される時はその都度設定してください。

モード切替ボタンを押すと、
カウンター数⇒　加熱時間⇒　冷却時間
の順にディスプレイ表示に呼び出せます。
呼び出されたモードはランプが点灯します。
どのモードのランプも点灯していない時はカウンター表示モードになっている時です。



■加熱時間の設定

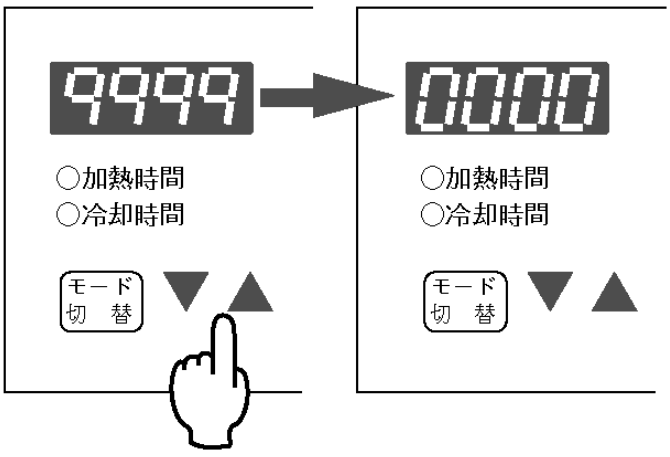
・「加熱時間」モードにして、▲、▼キーで数値を加減して設定します。[0.1～5.0 秒の範囲]
・使用されているときの電圧、包装フィルム（袋）の材質により、適切な加熱時間は異なります。
・シールができる最短の時間で設定してください。作業速度があがり、部品の無駄な消耗を抑えます。

■冷却時間の設定

・「冷却時間」モードにして、▲、▼キーで数値を加減して設定します。[0.1～10.0 秒の範囲]
・冷却時間は加熱時間の 1.5～2 倍必要です

■カウンターのリセット

シール作業を行うとカウンターの数値が１ずつ 0000～9999 の範囲で増えていきます。数値を 0000 に戻したい場合は、カウンターを表示しているモード状態で▲または▼ボタンを押してください。



６ 準 備

6-1 シールバーと制御ユニットケースの接続

制御ユニットケース背面にあるヒーター用端子台に、シールバー電極からのヒーターコードを接続してください。

電源プラグをコンセントから抜いた状態で作業を行ってください。電源プラグを差し込んだまま作業を行なうと感電する恐れがあります。

6-2 電源の接続

電源は必ず「仕様」に記載している電圧・消費電力に適合した容量のコンセントから直接接続してください。電源プラグは根元までしっかりと差し込んでください。

「電気配線工事は電力会社の認定工事店、または第３種接地工事の資格者によって行ってください」

消費電力は製品によって異なります。コンセントの容量が製品の消費電力以上あることを確かめ、直接接続してください。容量の少ないコンセントから電源を取ったり、継ぎ線やタコ足配線をすると電圧降下し、機械が正常に動作しないだけでなく、電線やコンセントが発熱して火災の原因にもなります。適切な容量の電源工事を行ってください。

製品に組込まれている標準のプラグの取替え配線をする場合、接続に誤りのないことを確かめてください。またアース線が所定の端子に接続されていない場合、電源側で短絡（ショート）、漏電します。

6-3 配線を行う

シールバー・制御ユニットケースはシール装置の一部ですので、お客様でシール装置と制御ユニットケース間の配線を行う必要があります。

配線の方法は、「電気回路図」を参照し、正しい配線を行ってください。

尚、入出力信号のメタルコンセントは制御ユニットケース背面に取りつけてあります。

7 正しい使い方

シール面に袋をセットする時などは、指を挟まないように十分注意してください。

シール中は、ヒーター、電極が熱くなっていますので、手を触れると火傷をする恐れがあります。触らないように十分注意してください。

準備ができましたら、下記の手順により動かしてください。

1	**電源スイッチ　ＯＮ**	⇒	コントローラーのディスプレイが点灯します。
2	**加熱時間、冷却時間を設定**	⇒	「５ 各部の名称とはたらき コントロールユニット」をご覧ください。
3	**シール面に袋をセットする**		
4	**ユニットケースに スタート信号を入力する**	⇒	ユニットケース後部のメタルコンセントに入力 「配線図」をご覧ください。
5	**シール終了**	⇒	
6	**ユニットケースより 終了信号が出力される**	⇒	ユニットケース後部のメタルコンセントより出力 「配線図」をご覧ください。

終了時は　電源スイッチをＯＦＦにしてください。

●シールの仕上がり状態について

インパルス方式のシーラーは、シール条件として加熱、冷却、圧力が重要であり、シールの良否に大きく左右します。また、異なる包材、内容物に於いて、加熱時間・冷却時間・加圧力の最適な設定が異なりますのでご注意ください。

異なる包材、内容物における最適なシール状態は、お客様の責任において確認してください。
ガゼット袋の場合、厚みが場所によって異なりますので、密封されているかどうか必ず確認してください。
【例：水中で袋を押し、気泡が出ないか確かめるなど】